

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（ - : 回答が存在しない、* : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (四国)		-	-	-
		コンビニ（店長）	お客様の様子	・競合店舗数の増加により新規客は増加していないが、売上は前年並みを維持しており、来店頻度が上がっている。客の節約志向が変わり始めたようだ。
		衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・地方でも景気は少しずつ良くなっている。来客数は割と多い。客単価も意外と上昇しており、高額な物でも以前に比べてすんなり買っていき客が増えている。
		衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・2月は1年の中でも最も売上が悪い月で、今年の場合も売上単価はそう大きくはない。ただ、前年比では比較的、天候に恵まれ、特に暖かい日があったせいか、春物の売行きが順調である。単価もその分は上昇しており、結果としては好調だった。
		家電量販店（副店長）	単価の動き	・暖冬で季節家電商品の売上は前年比減少しているが、白物家電の販売が好調に推移している。
		乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・3月の決算に向けセールなど行っているため販売量は良くなっている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・2月のイベントでは予想以上の台数が販売できた。
		乗用車販売店（役員）	来客数の動き	・客の動きが活発だ。
		旅行代理店（営業担当）	販売量の動き	・春休みやゴールデンウィークの10連休だけに限らず、全体的に販売が大きく増えている。
		通信会社（技術）	販売量の動き	・新規契約数が毎月増加傾向にある。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・卒業シーズンで来客数が多くなってきた。
		商店街（代表者）	それ以外	・ここへ来て、10月からの消費税の引上げについて、いろいろなことが新聞紙上に掲載されている。それを見た消費者や経営者の消費マインドがかなり低下する懸念がある。
		商店街（代表者）	単価の動き	・サービス業は業界全体が多様化しており、客が分散している。客単価も低いままで推移しており、店舗間の競争で値上げが難しくなっている。
		一般小売店〔書籍〕（営業担当）	お客様の様子	・不要不急の物は相変わらず買っていないが、少しずつ懐に余裕が出てきているようで、購買意欲はあるようだ。
		百貨店（営業統括担当）	販売量の動き	・バレンタイン商戦は好調で、化粧品も堅調に推移した一方、衣料品のマイナストレンドは継続しており、高額品の売上の伸び悩みも影響し、売上は苦戦している。インバウンド売上は、春節期間の売上が伸長した影響もあり、プラスで推移した。
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・2月の来店客数は回復基調で推移したが、客単価が下がり、売上の伸びは厳しい月となった。生鮮食品については価格の低下傾向は見られないが、加工食品で価格が低下していることが近隣競合店との比較買い回りが激しくなった要因のようだ。
		スーパー（財務担当）	単価の動き	・相場の影響もあり、青果部門が全体の足を引っ張っている。
		コンビニ（総務）	来客数の動き	・売上高は前年を上回っているが、客単価で客数の落ち込みをカバーしている構図は変わらずである。客数の前年比が回復しない限り、良くはならない。
		衣料品専門店（営業責任者）	販売量の動き	・売上は前年比で105%程度となる見込みである。冬物の最終セールが前年に比べ比較的長く売れており、1月のセールに来店しなかった客が動いている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車受注及びサービス在庫予約は増加傾向にあるが、長期的に考えると新車生産台数及び、サービススタッフ数を受注に合わせて増加させることはできないので景気動向は変わらない。

	その他小売 〔ショッピング センター〕(副 支配人)	単価の動き	・店舗によりばらつきはあるものの、客数の減少を客単価のアップでしのいでいる状況が続いている。
	通信会社(支店 長)	販売量の動き	・特段の変化は見られない。
	通信会社(営業 部長)	販売量の動き	・販売量は3か月前とほぼ同じである。
	競輪競馬(マ ネージャー)	販売量の動き	・売上高をみると3か月前比104.99%で微増しているが、3か月前は休場日が2日多いため、ほとんど同水準で推移している。
	設計事務所(所 長)	お客様の様子	・相変わらず、設備投資が旺盛で、特に宿泊業や飲食業など、観光客を対象とした施設への設備投資がある。
	商店街(代表 者)	来客数の動き	・日本銀行等の統計指標と違い、日本経済は長期下向き方向に動いており、地方経済の環境は回復の兆しすら見えない。外国人労働者の採用による人手不足の解消などありえない。むしろ多国籍国家の弊害は経済のみならず複雑な社会環境の変化を呼び起こし、安心安全な生活さえも不安視される状況になっていくだろう。
	商店街(事務局 長)	販売量の動き	・前年末の大幅な株価の下落以降、100万円を超えるような宝飾品の売上が悪化している。現在好調な高級アパレル、雑貨、化粧品等に飛び火しないか懸念している。
	一般小売店〔生 花〕(経営者)	来客数の動き	・繁華街の入り込みが悪く、来客数も少なかった。次の購入時のために下見はするが、まとめ買いや余分買いは少なく、必要なものを予算範囲内で購入する客が多かった。
	家電量販店(店 員)	単価の動き	・価格の二極化が起こっているが、圧倒的に低単価商品の割合が高い。
	一般レストラン (経営者)	お客様の様子	・客数、販売量共に少なからず減少傾向にある。客の購買力も減っており、焼肉の外出は、より特別なイベントになっているようだ。
	観光型旅館(経 営者)	競争相手の様子	・当地の温泉本館が大きな改築に着手したため、イメージが落ちてきている。また、工事中の旅館も多いため、全体的な客数が減ってきている。商店街などに、にぎわいはあるが、今の状態は明るさが見えない。
	都市型ホテル (経営者)	来客数の動き	・元々1~2月は宿泊者が少ないが、今年の2月は想定以上に動きが悪かった。周遊ふっこう割が終了したことによる減少もあるが、それ以上に落ち込みが激しかった。
	× スーパー(店 長)	単価の動き	・温暖な環境のため、1月を過ぎて2月になっても野菜の相場安に困っている。単価が上昇しないので、全体の景気に大きく影響している。
	× コンビニ(店 長)	来客数の動き	・来店客数の減少が著しい。また、購買力の弱さをとても感じている。
	× タクシー運転手	お客様の様子	・夜の繁華街に入はいるが乗車率が悪く、実車率も悪い。歩いてホテルに帰る県外の客が多く、地元客の飲食が少なくなっている。
	× タクシー運転手	来客数の動き	・2月は本来、寒い季節だが、前年に比べてもずっと暖かく、暖冬だった。寒ければ寒いほど、タクシーの利用率は増加するが、暖かいので余り利用者が伸びなかった。会社全体としても前年より落ちている。また、お遍路がこの時期はないので、春遍路が始まれば、少しは上向くだろう。夜間も乗客が少なく、飲みに出ている人も少ない。
企業 動向 関連 (四国)	-	-	-
	木材木製品製造 業(営業部長)	受注量や販売量 の動き	・受注量が増加している。2月の売上見込みを大きく上回った。消費税の引上げの影響と暖冬の影響で住宅工事が順調に推移している。職人不足の影響で工事は遅れ気味だが影響は少なかった。

	化学工業（所長）	受注量や販売量の動き	・ゴールデンウィーク用の受注が増加している。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年、納期が集中する第4四半期においては、納品により売上が向上する時期であり、今期も変わらない状況である。国、自治体の発注により、増減はあるものの、災害対応関連業務が上乘せされた結果、例年に比べて好業績となっている。ただし、人件費や外部委託費等の大幅増により、利益率は改善されない。
	通信業（企画・売上管理）	受注量や販売量の動き	・2017年度の1～2月が悪かったこともあり、現在のCMの受注は前年に対して微増している。自動車や、薬品、医療用品業界からの受注が伸びている。
	農林水産業（職員）	取引先の様子	・園芸品の販売については、前年11月から价格的に前年同期を下回る状況が続いている。大型野菜を中心に安定的な市場入荷があるなかで、量販店等が品薄だった前年同様の売り方をして、状況に応じた販売手法がとられないことが大きな要因である。一方で、消費者の購買意欲は鈍く、価格を下げて量販体制をとっても消費者がそれに応えない。
	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・月初めに東京で展示会があり、新商品に多くの新規受注があった。しかし、前年から当地でも労働力不足の問題が顕在化し、時給が上昇している。タオルメーカーは多くのタオル縫製協力会社に加工を依頼しているが、それら零細縫製会社は労働力不足が顕著で、今後、産地全体の生産加工に大きな影響が出てきそうである。
	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・燃料や主原料のパルプの値段が少し下落方向に向かっているため、多少、原価は下落してきたが、一方で運賃が上昇しているため、大変厳しい。
	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・前月同様、余り大きな変化はない。
	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・仕事はあるが、利益が伴わない状況が続いている。受注はたくさんあるが、もうからないというのが、今の状況である。
	電気機械器具製造業（経理）	受注量や販売量の動き	・製品の販売量は3か月前と比べて大きく増減していない。製品別にみると多少の変化はあるが、総量としてはおおむね横ばいの出荷が続いている。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・年が変わってから受注が伸びない。
	輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・大きくは変わらない。
	輸送業（経理）	受注価格や販売価格の動き	・客の出荷等の動向は活発であり、計画的に物流が推移している。
	輸送業（営業）	受注価格や販売価格の動き	・3月にかけて引っ越しの繁忙期を迎えているが、作業員並びに輸送車両不足の影響を受け、需要と供給のバランスが崩れている。そのため、客からの受託運賃と下請業者への支払運賃の双方が高騰気味であり、客への費用負担が大きくなっているばかりか、予定どおりに転居ができない引っ越し難民の増加が危惧される。
	公認会計士	取引先の様子	・今月の関与先の決算、あるいは試算表等を分析すると、前年比で、ほとんど変わらないところが多くなっている。
	金融業（副支店長）	取引先の様子	・最近徴求した取引先の決算書や試算表は業況が悪化しているものが多かった。
	x	-	-
雇用 関連 (四国)		-	-
	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・企業は新卒の採用人数が確保できておらず、派遣の依頼が増加している。
	学校〔大学〕（就職担当）	周辺企業の様子	・本学周辺では、新たな住宅の建設や、ロードサイドの飲食業の開業などが相次ぎ、老朽化した施設等のリニューアル、スクラップアンドビルドなどの時期が一斉に到来したようだ。

	人材派遣会社 (営業担当)	求職者数の動き	・求職者数に大きな変化がない。年度末に向けて登録者は増加するだろう。
	人材派遣会社 (営業)	周辺企業の様子	・働き方改革法を念頭に置いて、各企業では業務の効率化に取り組んでいる。現状は人手不足の中で、現場の担当者が余分な業務を処理している。新年度に向けて現場の業務スリム化と、各現場業務の格差を是正していけば、改革の意味と成果を得ることができるだろう。
	求人情報誌(営業)	採用者数の動き	・企業側の採用意欲は引き続き高く、募集人数も高止まりしている。ただ、人員を充足させるには至っておらず、引き続き人手不足が続いている。
	職業安定所(職員)	周辺企業の様子	・人手不足感が高く、求人意欲も高いが雇用条件を引き上げるほどの利益が見込めず、ジレンマに陥っている。
	職業安定所(求人開発)	周辺企業の様子	・有効求人倍率は増加傾向にあるものの、最近、企業整理の情報が増加してきている。
	新聞社[求人広告](担当者)	それ以外	・次年度の予算計画では、例年以上に企業が広告費を削ってきている。
	民間職業紹介機関(所長)	周辺企業の様子	・建設、土木関係において、仕事はあるのだが、大工、塗装工等の職人がいないため、工事がストップしている場合が多い。また、ボルト等の建築資材がないため、工期が大幅に遅れている工事現場が多くある。今後、年度末を控えて工期の遅れをどのように取り戻すかが課題となっている。
x	-	-	-